□横浜植物会：**横浜の植物**　1,325 pp. 2003. ¥9,500. 有隣堂.

わが国最古の植物同好会である横浜植物会の，創立90周年記念事業の一つである．先に刊行された神奈川県植物誌2001と平行して，宮代周輔氏の遺贈品に加えて新たに標本を収集し，図のほとんども新しく描かれたものである．

主体は維管束植物誌で1,120頁を占める．スタイルとしては神奈川県植物誌2001と類似しているが，標本の引用は域内17地区それぞれについて代表的なものが記されている．分布図は市町村界表示の白図に年代別のマークを用いて三次メッシュ表示した上，それぞれの地区での推定生育量が濃淡表示されている．最近の採集品は三次メッシュによる位置決めが可能としても，過去の標本の産地をそれほど細かく特定できるのかと疑問に思うことがあるが，資料が豊富ならばそれが可能なもののみを選ぶこともできるだろう．

神奈川県は先の県植物誌製作によって組織や手法がよく整備され，それを利用して，よその同好会ではなかなか真似のできないこれだけの成果を挙げることができたものと思う．この厚さで値段が一万円を切っているのも成果の一つだろう．注文をつけるとすれば，今後は中身を適宜取捨して，手軽に一般の人や教育面で利用できるものを開発したらどうだろうか．その際には，前後につけられているII植物相の概要，IV研究史，V植物相の変遷，VI樹木と栽培植物，VIIウォッチングガイド，VIII暮らしの中で，などの章を拡張充実させれば，もっと大きな役割を持つにちがいない．　（金井弘夫）

□松澤篤郎：**群馬の里山の植物**　190 pp. 2003. ¥2,000（送料共）．みやま文庫．

最近は里山の環境価値が一般にも見直され，近くの丘陵を歩いていると「里山へ行く道は？」と尋ねられるようになった．そういう需要に応ずるための一冊である．

全体の半分を里山の解説，生態系としての里山の観察のポイントに費やし，平地林の階層ごとの出現植物やマント群落の見方に紙数を与えている．残り半分は類似植物の見分け方で，識別の微妙なポイントが科ごとにまとめて示されている．この本に限らないのだが，種類へ到達する前に，そういう種群にどうやって到達するかの解説があったらよいのにな，と思う．B6版なのでハンディだが，そのために解説図が小さいのはもったいない気がする．申し込みは著者（374-[redacted] 館林市[redacted]）へ．　（金井弘夫）

□神奈川県立生命の星・地球博物館：**侵略とかく乱のはてに—移入生物問題を考える—**　141 pp. 2003. ¥900（送料¥400）．同館．

特別展の図録である．帰化植物の問題はかねてから議論されているが，帰化にかぎらず，本来の生態系外から持ち込まれた生物がどんな問題を引き起こすかということについて，身近な帰化植物，固有の地域生態系の変革と破壊，自然の復元と創造，ペット問題，在来種との競合，遺伝子汚染，有害移入生物，などの見出しの下に，生々しい実例が述べられている．

ブラックバスの意図的放流は一時話題になったが，殖産目的の大規模移入によって相模湾からハマグリが消えてしまったばかりか，わずかに残ったハマグリも，移入種との交雑によって本来の種の特徴が失われつつあるという．また「自然復元」をうたって流行しているトンボ池やホタルの養殖も，生態系の攪乱を招きかねないことが警告されれている．

植物でも，緑化を目的とした移入種子の散布で，同種でありながら在来種とは異なるタイプの植物が広がりつつあることは，われわれも日常見聞している．これらの問題を概観するのに有用である．入手については同館ミューゼアムショップ（250-[redacted] 小田原市[redacted]）へ，現金書留で申し込むこと．

（金井弘夫）

□北川尚史（監）伊藤ふくお（写真）丸山健一郎（文）：**ひっつきむしの図鑑**　95 pp. 2003. ¥2,800. トンボ出版.

「ひっつきむし」という単語は，最近の環境省の調査によって全国的に定着した．本書はその図鑑である．まず「ひっつきむし」を，堅いフック型，柔らかいフック型，逆さトゲ